

酒とパソコンと少々ミルク

飲んで、食べて、寝れば・・・

成光 昭男

あけましておめでとうございます。
旧年中は多くの酪農家の皆様をご訪問させて頂き、大変お世話になりました。今年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

お正月は、朝夕の搾乳作業は欠かせないものの、美味しいものを召し上がって、ゆったりとお過ごしでしょうか。自戒も込めて、くれぐれもお屠蘇を飲みすぎないように・・・。

ある酪農家での事。乳牛の前の飼槽には乾草がたっぷりと置かれていて、飽食させているとのこと。でも、何か様子がおかしい。彼女達は私を見つめて、そわそわしている。

飼料設計書を見せて頂いても問題なし、でも乳量が思ったように伸びない。

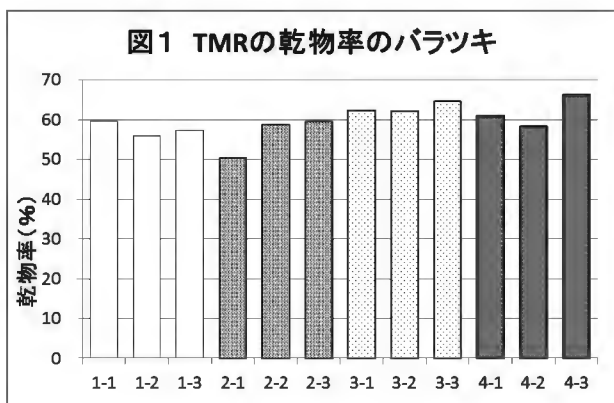
彼女たちに近づくと、お腹の張りが今一つの感じ。そこで、見るからに旨そうなオーツヘイがあったので、与えてみると驚くほど良く食い込む。

去年は、こんな場面によく出会いました。

飼料設計通りにエサを給餌しても、それを乳牛が食べているとは限りません。

飼料設計と実際の摂取量の違いが出る原因として、大きく分類して3つあると思います。

ひとつは、飼料成分の変動です。図1はかなり昔のデータで恐縮ですが、畜産試験場で私がTMRの給与試験を行った時のTMRの乾物率の変動を表しています。



出来上がったTMRの乾物率を3日連続測定しました。これを4週間繰り返した結果です。毎週、原料のコーンサイレージの成分分析を行い、

TMRがほぼ同じ成分になるように設計をやり直しましたから、乾物率は一定になることを期待していたのですが、実際にはかなりのバラツキが生じてしまいました。

最も乾物率が低いときで50%、最も高いときで66%でしたので、その差は2割にも達していました。これだけの差があれば、「設計通りに給与しているから大丈夫」と安心していただけると大変なトラブルに会う可能性があります。

飼料設計をいくら厳密に行っても、実際に乳牛が食べるエサが設計とは違っていることを強く感じたものです。

飼料設計と実際の摂取量の違いが出る原因の二つめは、嗜好性です。

いくら栄養成分を満たしたエサであっても、彼女たちが喜んで食べてくれないと、結果的に栄養不足になってしまいます。嗜好性の悪いTMRの原料の嗜好性を一つひとつ調べたことがあり、嗜好性の悪い原料を探し出し、その原料を変えることにより、食い込みが改善したこともあります。糖蜜飼料を加えて嗜好性を上げることも良い対策かも知れません。

飼料設計と実際の摂取量の違いが出る三つめの原因は、彼女たちの体調不良です。

お腹が痛かったり、肢が痛かったりしたら、当然、エサの食い込みは悪くなります。乾乳中の栄養管理に問題があつて、お産後に食い込みが悪いこともあります。

乳牛にとって、お腹いっぱい食べることは健康維持にとっても大切です。彼女たちの様子をよく観察し、実際にお腹いっぱい食べて居るかどうかを確認します。もし、彼女たちがお腹いっぱい食べていないのであれば、その理由を突き止めて対策を考えてあげましょう。

乳牛は、飲んで、食べて、寝れば(横臥すれば)、乳をよく出してくれます。水を飲まないと、エサを食べません。お腹いっぱい食べれば、横臥します。

私たちにできることは、乳牛がエサをお腹いっぱい食べられる環境を整えてあげることです。